

佐倉市が
取り組む

気候変動対策



気候変動対策とは？

近年、世界各地で洪水や干ばつ、熱波などの異常気象による自然災害が多発し、地球温暖化による「気候変動」が引き起こす、さまざまな事象が問題となっています。

気候変動への対策には、原因となる温室効果ガスの排出量を削減する【緩和】と、生活や社会などを変えることで気候変動の影響による被害を回避・軽減するための【適応】があります。

市では、私たちの生活に深刻な影響を及ぼす気候変動に対し、【緩和】と【適応】の両輪で、市民、事業者の皆さんと連携した取り組みを進めていきます。

緩和とは？ 2つの 適応とは？

原因を少なく

気候変動対策

影響に備える



出典：気候変動適応情報プラットフォーム

気候変動の影響

このまま地球温暖化が進むと、さまざまな分野において、気候に関連するリスクが高まり、私たちの暮らしや自然生態系に、より深刻な影響を及ぼします。

分野	将来予測される主な影響
農業、林業、水産業	・作物の生育不良 ・病害虫の増加
水環境・水資源	・河川、湖沼の水質悪化 ・渇水の深刻化
自然生態系	・希少な動植物の分布が縮小 ・外来生物の侵入・定着
自然災害	・洪水の増加、浸水被害地の拡大 ・土砂災害の発生
健康	・熱中症患者の増加 ・蚊が媒介する感染症の増加
産業・経済活動	・レジャー、観光産業への影響 ・災害による生産設備への被害
市民生活	・豪雨による停電や断水 ・暑熱による生活への影響

出典：気候変動適応情報プラットフォーム

市長コメント

「持続可能なまち佐倉」の実現に向けて

佐倉市が気候変動対策に取り組む理由

印旛沼の最下流に位置する佐倉市では、洪水調整機能の強化が地域課題の一つとなっています。近年では、地球温暖化などの影響により、ゲリラ豪雨の頻発化など、河川の氾濫リスクも一層増大しています。令和元年10月の大雨では、道路への冠水や土砂崩れなど、市内でも大きな被害が発生しました。

市民の皆さんの安全な暮らしを守り、安心して暮らせるまちづくりこそ、私たち自治体の役割であり、県内市町村に先駆けて、気候変動対策に取り組むことといたしました。



令和元年10月の大雨で冠水した国道296号 (鷹匠橋～鹿島橋・令和元年10月26日撮影)

周辺自治体の模範となるような取り組みを推進します

佐倉市には、地球温暖化の要因となる二酸化炭素を吸収できる豊かな緑があります。また、すでに多くの市民、事業者の皆さんが、里山や竹林など身近な緑の保全活動に取り組んでおり、市全体で一丸となって、気候変動対策を推し進める土壌が整っていることから、周辺自治体の模範となるような取り組みを推進できると考えています。

温暖化や気候変動といった地球規模の環境問題を解決するキーワードは「Think Globally, Act Locally」(地球規模で考え、地域で行動する)です。国立環境研究所(国の気候変動適応センター)など関連研究機関の科学的知見をお借りしながら、身近な取り組みを積み上げ、「持続可能なまち佐倉」の実現につなげてまいります。



佐倉市長 西田 三十五

「気候変動対策準備室」を開設しました

佐倉市における気候変動の影響などに関する情報を分析・提供する役割を担う「地域気候変動適応センター」の設置に向けて、関係機関と連携を図りながら、気候変動への緩和および適応施策を検討します。その検討結果に基づき、具体的な事業計画の策定を行い、今年度中にお知らせする予定です。

☎ 気候変動対策準備室(企画政策課) ☎ 484-3374

